

①スラブ人について、②支配者の系譜、③近隣国との関係、④各都市、⑤ルーシの変遷、⑥モンゴル帝国、⑦キプチャクハン国の分裂後、⑧ウクライナ・キエフ大公国、⑨ウラジミル大公国、⑩モスクワ大公国、⑪動乱の時代、⑫ロマノフ家のロシア帝国、⑬ピョートル大帝時代のロシア帝国、⑭エカテリーナ女帝時代のロシア帝国、⑮共産主義政権

①スラブ人について・・・「ロシア」は、多民族国家であり、その原型が「東スラブ人」である。カルパチア山脈の北からドニエプル川にかけての地域で、狩猟、農耕生活を行っていた。多民族国家という理由は、東スラブ人、ノルマン人(ヴァイキング)、モンゴル遊牧民族、バルト海沿岸諸国の民族、ドイツ人とも融合していったからである。

スラブ人	東スラブ人 (ロシア人・ウクライナ人・ベラルーシ人)	「東スラブ人」は、内部抗争に疲弊していたため、自分たちを治める指導者として、ノルマン人(ヴァイキング)に依頼した。依頼した場所は、ヴォルホフ河沿いの「ノヴゴロド」である。 東スラブ人は、ノルマン人(ヴァイキング)のことを、「船を漕ぐ人」という意味で「ルーシ」と呼び、融合していった。
	南スラブ人 (セルビア人・クロアチア人・ブルガリア人)	ブルガール人＝ブルガリア人以外の南スラヴ人は、近代において、連邦国家であるユーゴスラヴィア(「南スラヴ人の国」の意味)をつくった。
	西スラブ人 (ポーランド人・チェコ人・スロヴァキア人)	西スラヴ人の居住地には、12世紀ごろから西方のドイツ人による東方植民が行われ、ポーランドやチェコは、ドイツ騎士団等によるキリスト教への改宗の対象となっていた。

②支配者の系譜・・・ほとんど、リューリク朝とロマノフ朝が支配していた。

支配者の系譜	リューリク朝＝636年(862～1598)	ヴァイキングのリューリクが東スラブ人と同化して、ノヴゴロド国を作った。ボリス・ゴドゥノフの時に、血縁が途絶えた。
	バトゥによるキプチャクハン国＝244年(1236～1480)	モンゴル帝国チンギスハンの孫バトゥが支配したキプチャクハン国によって、244年間支配された。「タタールのくびき」という。
	動乱時代＝15年(1598～1613)	タタール人のボリス・ゴドゥノフが権力を掌握したが、バルト海諸国の侵略、大飢饉等により動乱の時代を迎えた。
	ロマノフ朝＝304年(1613～1917)	全国会議でロマノフ家からツァーリが選出されて、農奴制を基礎にして、ヨーロッパ最大の帝国を築き上げた。
	共産主義政権(1917～)	農奴の不満を解決しきれなかったため、反乱が起き、革命となり、共産主義政権が出来た。

③近隣国との関係・・・カトリックの侵略、バルト海の権益等により争いが続いた。

周辺国との関係	スウェーデン	1478年、バルト海東海岸の領有を巡り争っていたノヴゴロド共和国は、ロシアに吸収されたがその争いをロシアが引き継いだ。 1721年、大北方戦争でロシアが勝利して、バルト海の覇者となりパワーバランスが崩れ、スウェーデンが地盤沈下した。
	トルコ	ロシアが南下政策を採り始めた16～20世紀初頭まで、黒海航行権、バルカン半島、カフカスの権利についてトルコと争った
	リトアニア	1253年、ミンダウガスが、初代国王となり初めて統一された。多神教だったので、北方騎士団からの攻撃を受けるが、ベラルーシ・ウクライナ全域を支配し、スラブ文化を受け入れる寛容さを持っていた。 1386年、ポーランド王国はリトアニア大公国と同君連合の国家となり、ヤゲヴォ朝が成立、それによってドイツ騎士団の東進を阻止した。その後はポーランド化が進み、1569年に合同し、ポーランド王国となってリトアニアは一旦消滅する。
	ポーランド	1655年、スウェーデン軍との大北方戦争により荒廃した。戦争、疫病、飢餓によって人口の約4割を失うこととなった。周辺諸国、とりわけロシアのリトアニア国内における影響力は増大していった。リトアニア貴族の諸派閥が拒否権を発動し続けたことにより、改革は全て妨げられた。結局、ロシア帝国、プロイセン王国、オーストリア大公国(ハプスブルク君主国)の3カ国によって1772年に第1次ポーランド・リトアニア分割が行われ、その後続いて分割が行われこれによりポーランド・リトアニア共和国は解体された。その後復活した。 1018年、ナポレオンがプロイセンとの戦争に勝利し、プロイセン領ポーランドの地にワルシャワ大公国を建てた。しかしこの国は真のポーランド国家の復活とは言えなかった。ナポレオン没落後、ポーランド立憲王国がそれを継承したが、この国はロシア皇帝を国王としたので、実質的にはロシア支配が続いた。 1701年、北方戦争を機にロシアとスウェーデンの侵入を受けるようになり、ポーランドの弱体化はさらに進む。 1598年、ボリス・ゴドゥノフのロシア動乱期に、ポーランド・リトアニア共和国が干渉した時期

④各都市(ロシア・ウクライナ)・・・ソヴィエト共産党書記長は、優秀な人材を輩出するといわれる黒海周辺から、5人選ばれている。

	位置	都市名	万人	特徴
バルト海		サンクトペテルブルグ	528	1713年～1918年までロシアの首都。ワールドカップサッカーの準決勝等行われた。プーチン大統領の出生地である。
		プスコフ	20	903年の造営されモスクワ大公国の第二の都市として栄えたが、サンクトペテルブルグが造営されて、地盤沈下した。
		ノヴゴロド	21	ロシア発祥地だが、現在では一地方都市に過ぎない。
モスクワ近郊		モスクワ	1238	1271年町が開け1713年まで、ロシアの中心で、1918年よりロシアの首都。ワールドカップサッカーの決勝等行われた。
		ヤロスラヴリ	61	ヴォルガ河に面している。ポーランド軍に占領されたモスクワを解放するため、クジマ・ミーニンとドミトリー・ポジャルスキー公爵の国民軍はこの修道院から出撃した
		ウラディミル・スーズダリ・ロストフ(黄金の環)	32	いわゆる「黄金の環」を構成する都市で、モスクワ発展の基礎を築いた地域で、極めて美しい地域である。
ヴォルガ河流域		リャザン	52	1380年に、キプチャク汗国とモスクワ大公国の大きな決戦であるクリコヴォの戦いが起きた都市である。
		ニジニーノヴゴロド(旧ゴーリキー)	127	ヴォルガ河とオカ河が交わり、交易の拠点として発展しストロガノフ家の拠点で、自動車産業等の重工業都市である。ワールドカップサッカーでは、20180706に準々決勝のフランス対ウルグアイ戦等が行われた。
		カザン	121	タタールスタン共和国の首都でヴォルガ河の接した都市で人口の53%がタタール人で、40%がロシア人である。ワールドカップサッカー開催都市で、ドイツ、ブラジル、アルゼンチンが敗れた都市である。
		ウリヤノフスク	60	ソヴィエト連邦共産党書記長だったレーニン(1870～1924)の出生地。カザンから南に約150km。
		サランスク(モスクワから東南東630km)	30	モルドヴィア共和国の首都で、ヴォルガ盆地のサランカ川とインサル川の合流地点。ヴォルガ・フィン系のモルドヴィン人が住む。ワールドカップサッカーでは、20180619に日本対コロンビア戦が行われた。
		サマラ	117	ヴォルガ河の景色が美しい都市だが閉鎖都市だった。ワールドカップサッカーでは、準々決勝等が行われた。
		ヴォルゴグラード	104	ジョチ・ウルクスのベルケの治世にヴォルガ川流域にベルケ・サライ(ヴォルゴグラードの東85km)を建設した。ワールドカップサッカーでは、20180628日本対ポーランド戦が行われた。
		アストラハン	50	キプチャク汗の首都サライは、アストラハンの北120kmのセトリヤンノイェ村の近くである
		ノボシビルスク	157	「ノボ」は「新しい」、「シビルスク」は「シビルハン」をいい、1893年にシベリアの新しい都会ということで建設された。
		クラスノヤルスク	95	ソヴィエト連邦共産党書記長だったチェルネンコ(1911～1985)の出生地。ノボシビルスクから東に約300km。
シベリア		ブトカ	—	ロシア大統領だったエリツィン(1931～2007)の出生地。エカテリンベルクから東に約150km。
		オムスク	117	ノボシビルスクとウラル山脈の中間地点。軍事工場があり、閉鎖都市であった。
		エカテリンブルグ(モスクワから東1667km)	143	ウラル山脈東側に位置し、1723年ピョートル1世により工業都市として建設された。ワールドカップサッカーでは、20180624日本対セネガル戦が行われた。
		チェリャビンスク	118	ウラル山脈東側でエカテリンブルグの南。1736年にチェリャバ要塞が建設され、現在、重工業都市となっている。
		ハバロフスク	58	1868年に監視所が作られてから開発が始まった。現在、極東連邦管区の首都。
		ウラジオストック	60	1860年に町の建設が始まった。現在、極東連邦管区沿岸地方の州都。
		イルクーツク	60	バイカル湖の西岸内陸地にある町で、ウランバートルまで約300キロの地点にある。1652年頃から毛皮の狩猟の基地として開拓された。流刑されたポーランド人の建設したキリスト教会がある。
		ウラル	ウファ	111
黒海		ロストフ・ナ・ドヌー	111	ドン河に面して1749年に建設された。1952年、ボルガ・ドン運河が開通し、飛躍的に発展した。ワールドカップサッカー開催都市で、20180702日本対ベルギー戦が行われた。
		ブリヴォリノエ村	—	ソヴィエト連邦共産党書記長だったゴルバチョフ(1931～)の出生地。ロストフ・ナ・ドヌーから南東に約150km。
		スタヴロポリ	36	ソヴィエト連邦共産党書記長だったアンドロポフ(1914～1984)の出生地。ロストフ・ナ・ドヌーから南東に約300km。
		ソチ	40	黒海東海岸の昔からのリゾート地である。ロシアでカジノがあるのが、唯一ソチである。ワールドカップサッカーでは、20180707に準々決勝のクロアチア対ロシア戦等が行われた。
グルジア		ゴリ	5	ソヴィエト連邦共産党書記長だったスターリン(1878～1953)の出生地。ティビリシから北西に約76km。
ウクライナ		カーミヤンシケ(旧ドニプロゼルゼーンシク)	25	ソヴィエト連邦共産党書記長だったブレジネフ(1906～1982)の出生地。キエフから南東に約350km。
		カリノフカ(ロシア領内)	—	ソヴィエト連邦共産党書記長だったフルシチョフ(1894～1971)の出生地。キエフから北東に約350km。
		世界遺産都市のリヴィウ	—	981年頃、大モラヴィア国滅亡後は、キエフ・ルーシのウラジミール1世により、征服される。 — 1015年頃、ポーランドのボレスワフ一世により、長く征服される。

各都市	位置	都市名	万人	特徴
	ウクライナ	世界遺産都市のリヴィウ		<ul style="list-style-type: none"> - 1704年頃、スウェーデンのカール12世により、征服される。 - 1772年頃、オーストリア帝国により、征服される。 - 1918年頃、西ウクライナ人民共和国の独立宣言するが、ポーランドの支配が復活。
特徴		支配者	年号	出来事

⑤ルーシの変遷(685年間)

ルーシの変遷	ノヴゴロド公国=636年(862~1480)	ノヴゴロドは、ロシアの発祥の地である。ノヴゴロドは貴族が支配する公国であるが、実質は貴族共和制であった。しかし、ロシア正教を捨てカトリックに移行しようとしたため、イヴァン3世によりモスクワ大公国に併合される。
	ウクライナ・キエフ公国=358年(882~1240)	ヴァイキング達は、ノヴゴロドからドニエプル川を南下し、ウクライナのキエフを交易の中心としたが、モンゴル帝国バトゥの侵略により、滅亡する。その後は、地域柄、ポーランド・リトアニア共和国の支配下となったが、1667年、奪還した。
	ロストフ公国=275年(963~1238)	ロストフを首都として存在し、ウラジーミル大公国の分領公国である。また、ロストフは10世紀後半から1125年までの間、北東ルーシ(ウラジーミル大公国領域)の首都であり、ロストフを含む北東ルーシ地域は、現ロシアの根幹を成す地域となった。
	スーズダリ公国=368年(1024~1392)	キエフ大公の土地だったが、ドニエプル川を上り、息子達に分け与えられた。モンゴル帝国バトゥの侵略により、滅亡する。その後は、ウラジミル大公国に併合され、モスクワ大公国に併合されてきた。
	ウラジーミル大公国=206年(1157~1363)	ウラジーミル・スーズダリ大公国は、ルーシの公国の一つ。12世紀後半以後は大公国。現在のスーズダリ・モスクワなどを含む地域で、当時の辺境地であった北東ルーシに位置した。首府はウラジーミル。
	ニジニー・ノヴゴロド公国=171年(1221~1392) モスクワ大公国=264年(1283~1547)	木造のクレムリンを築いて建国した。結局モスクワに併合されるが、1508年石造りのクレムリンや聖堂を築いて安定した。公国の後もヴォルガ河の交易により繁栄し、ロシア最大の豪商であったストロガノフ家がこの地に拠点を置いた。 キエフ・ルーシの北東辺境地にあったルーシ系のウラジーミル・スズダリ公国のもとに成立した国家である。

⑥モンゴル帝国・・・チンギスハンの孫バトゥがヴォルガ河から侵略してきた。キプチャクハン国(ジョチ・ウルス)を建設して、1236年から1480年まで244年間、ルーシー帯を支配したが、モンゴル帝国とは？

モンゴル帝国	チンギスハン(1162~1227)の息子達	1184	チンギスハンの長男ジュチ(1184~1225)の相続のうち、西側のウルス(ハンガリー・ウクライナ・南ロシア)を、次男のバトゥ(1207~1256)が、継いで、東側(ヴォシビルスク地域)を長男のオルダが円滑に支配した。
		1185	チンギスハンの次男チャガタイ(1185~1242)の相続ウルスは、アルタイ山脈方面で、後継者定まらずに血縁が途絶えた。チャガタイとオゴデイは仲が良かったが、オゴデイの死の翌年死んだ。
		1229	第二代ハン(1229~1241)は、チンギスハンの三男オゴデイ(1186~1241)が就任。
		1246	第三代ハン(1246~1248)は、チンギスハンの三男オゴデイ(1186~1241)の長男グユク(1206~1248)が継いだ。
		1251	第四代ハン(1251~1259)は、チンギスハンの四男トルイ(1192~1232)の長男モンケ(1209~1259)が継いだ。
		1270	第五代ハン(1271~1294)は、チンギスハンの四男トルイ(1192~1232)の四男クビライ(1215~1294)が継いだ。
		1294	第六代ハン(1294~1307)は、クビライの次男チンキム(1243~1286)の三男テムル(1265~1307)が継いだ。
		1232	四男トルイは、早死にした。チンギスハンの死後、帝国本体の相続権を持っていたが、オゴデイに譲った。オゴデイの軍と帰還中に原因不明であった。

⑦キプチャクハン国の分裂後・・・各地域にハン国が出来たが、1783年を最後にジョチから始まるウルスが消滅した。

キプチャクハン国の分裂後	カザンハン国=ヴォルガ中流	1438	長男ジョチの13男カ・テムルの末裔のウルク・ムハンマドが興し、ヴォルゴ河の中流域のカザンを首都とした。
		1552	イヴァン4世により、カザン陥落。カザンからタタール人は追放され、17世紀半ばまでカザンはロシア人の町となった。
	アストラハン国=カスピ海北岸	1466	アストラハン国は、カシム・ハン(1466~1490)によって1466年ごろに、ヴォルゴ河のカスピ海側に建設された。
		1556	イヴァン4世により、カザンに続き、モスクワ大公国に吸収された。
	シビルハン国=南シベリア	1490	長男ジョチの5男シバンの末裔のイバク・ハン(1468~1495)が興し、ウラル山脈の東側チュメニを首都とし、イスラームを持ち込んだ。
		1598	コサック首長イェルマークは、ストロガノフ家に命じられシベリアを探検したが、シビルハン国との戦いで戦死した。シビルハン国もしばらくして滅亡した。
		1532	☞長男ジョチの13男カ・テムルの末裔のハージー1世ギレイにより建国され、クリミア半島のバフチサライを首都とした。 ☞トルコ系民族のタタール人は、スレイマン大帝の時代からオスマントルコの保護下のもと、黒海の交易で繁栄。
		1571	ポーランド・リトアニア大公国と結び、モスクワの町を焼き払った。この時代、クリミアハン国は強大であった。
		1783	エカチェリーナ2世が条約を破ってクリミア・ハン国をロシア帝国に併合したので、 ジョチ・ウルスは完全に滅亡した。

特徴	支配者	年号	出来事
⑧ウクライナ・キエフ大公国 ☞ノヴゴロドは、地理の便が良いので発展したが、ルーシの一員なのかバルト諸国の一員なのか、ロシア正教なのかカトリックなのか、曖昧だったので、最終的にはモスクワ公国により破壊・虐殺された(1478)。 ☞ルーシの中心が、ノヴゴロドからドニエプル川を南下して、交易都市イスタンブール(東ローマ帝国)方面の現ウクライナのキエフに移った。 ☞イーゴリ1世の妻がキリスト教信者だったのでウクライナ・キエフ大公国では、ギリシャ正教を取り入れ(988)、その後のキエフ正教、ロシア正教に繋がっていく。			
ノヴゴロド公国	862ノヴゴロド公国建国17=リューリク(830~879) (英語名ロデリック)	862	『原初年代記』によれば、リューリクの命令により、ドニエプル川を南下、キエフを発見してそこを治めるようになった。リューリクは、ルス族のノルマン人(ヴァイキング)だが、相互の争いに疲弊したスラヴ人が自分たちを治める指導者を求めてヴォルホフ河沿いのノヴゴロドで同化した。
キエフ	ポリャーネ族	866	アスコルドとジールの軍勢はコンスタンティノポリスを襲って惨敗を喫した。ルーシ族の兵士は命と引き換えに洗礼を受けたとある。
キエフを建設	879キエフを支配33=オレグ(???~912)	882	オレグは、兵を率いてキエフへ向かい、アスコルドとジールを欺いて殺害し、キエフに都を構えた。
	912キエフ大公即位34=イーゴリ1世(865~945) ☞リュウリクの子	911	オレグは、コンスタンティノポリスを襲撃して、通商条約であるルーシ・ビザンツ条約を締結させた。
	945キエフ大公の摂政24=オリガ(???~969) ☞903イーゴリ1世の妻となる	903	エストニアとの国境沿いでロシア有数の古都プスコフ出身のオリガと結婚。
		945	過度の貢納の強制に対して蜂起したドレヴリャーネ族により、暗殺された。
ギリシャ正教会を導入	963即位9=スヴャトスラフ1世(942~972) ☞イーゴリ1世とオリガの一人息子	945	イーゴリ1世が殺された後、3歳のスヴャトスラフ1世の摂政になる。4段階に渡って主人の復讐をした。
	972即位8=ヤロポルク1世(945~980) ☞スヴャトスラフ1世とハンガリー王女の長男。	957	オリガは、税制改革を行い、かつ、コンスタンティノブルで洗礼を受け、ギリシャ正教に改宗し、文化水準を引き上げた。
	980即位35=ウラジミール1世(955~1015) ☞スヴャトスラフ1世とオリガの鍵番マルーシャとの三男	966	ポーランドでは、地域の諸民族を統一した西スラブ人によるキリスト教の統一国家を建設した。
		967	第一次ブルガリア侵攻をして成功した。母オリガから、ギリシャ正教に改宗するよう言われたが、従わなかった。
		972	キエフを留守にし、ブルガリアを攻めていたが、ハザール王国消滅後のペチェネグ族により、スキを見て殺害された。
		980	キエフ大公になったが、弟オレクを殺害したことから弟ウラジミール1世に殺害された。
		980	☞キエフ進撃の途上で、ポロツク公国を滅ぼし、自身を「奴隷の子」と呼んで侮辱した公女ログネダを略奪して妻とした。 ☞ノヴゴロド大公(970)からキエフ大公になった。
		988	祖母オリガに続き自身も洗礼し、ビザンツ帝国皇帝バレイオス二世の妹アンナを後妻に迎えて、ギリシャ正教を国教として、ビザンツ文化を取り入れるなどしており、最も拡大した時期である。この時期に、ウラジミールの町を建設した。
キエフ大公国	1016即位38=ヤロスラフ1世(978~1054) ☞ウラジミール1世とログネダ(960~1000)の三男	1016	ロストフ公(980)、ノヴゴロド公(1010)から、キエフ大公になり、スウェーデン国王の娘と結婚した。
		1037	ヤロスラフ1世が、キエフ最古の教会であるソフィア大聖堂を建設。
		1045	キエフ大聖堂を手本にして、ノヴゴロドにソフィア大聖堂を建設。
	1093即位20=スヴャトボルク2世(1050~1113) ☞ヤロスラフ1世の孫	1093	キエフの象徴となった聖ミハイール黄金ドーム大聖堂を建立した。病死して聖ミハイール大聖堂で葬られた。
	1113即位12=ウラジミール2世モノマフ(1053~1125) ☞ヤロスラフ1世の孫、キエフ中興の祖	1113	キエフ大公自らの相続地であるベレヤスラヴリ・ルースキーのほか、北方のスズダリ、ロストフを支配し、のちに大公国の首都となるウラジミールを含め、いくつかの都市を建設した。自身の名前を付けた。
キエフ大公	1125即位7=ムスチスラフ1世(1076~1132) ☞ウラジミール2世モノマフの長男	1095	スウェーデン王インゲ1世の娘クリスティーナと結婚し、10人の子をもうけた。
	1149即位8=ユーリー1世ドルゴルーキー(1099~1157) ☞ウラジミール2世モノマフの六男 ☞母は、コンスタンティノポリス貴族の娘	1149	北東ルーシのスズダリに居を構えつつ、しばしば南方キエフに攻め入り、これを占領した。彼はモスクワの建設者としても知られる。当初、ロストフが首都だったが、1112年、スズダリが、ロストフ・スズダリ公国の首都となる。
	1157即位10=ロスチスラフ1世(????~1167) ☞ムスチスラフ1世とスウェーデン王女クリスティーナの3男、キエフ大公イジャスラフ2世の弟。	1158	ウラジミールに、生神女就寝大聖堂(ウスペンスキー大聖堂)建設した。
		1164	キエフを真似て、ウラジミールに黄金の門を建設した。
		1165	ウラジミール近郊に、優雅な佇まいの生神女庇護聖堂(ヴォクロヴァ・ナ・ネルリ教会)を建設した。
		1169	キエフは、ウラジミール・スズダリ大公国の軍勢によって略奪された。
	1173即位37=リュウリク2世(???~1210) ☞ロスチスラフ1世の三男	1203	チェルニーヒウ公国の公爵リュウリク2世はキエフを攻略して同様な掠奪を行った。このような事件によってキエフ大公の地位と威厳は大きく損なわれた。

特徴	支配者	年号	出来事
キエフ大公	1214即位9＝ムスチスラフ3世(???～1223) ☞ロスチスラフ1世の孫	1223	モンゴル帝国軍の最初の侵攻情報はいり、キエフで、モンゴル軍に対する諸公との会議を取り持った。しかし、肝心のカルカ河畔の戦いでは川岸の要塞化を怠り、3日で侵略を許した。諸公の連合軍は敗れ、ムスチスラフは捕虜となり処刑された。
	1223即位16＝ウラジミル4世(1187～1239) ☞キエフ大公リュウリック2世の次男	1223	キエフの軍勢はカルカ川でモンゴル軍に敗北し、1235年にチェルニーヒウの公爵ミハイール2世はキプチャクを連れてキエフを陥落させた。
	1239即位1＝ダヌィーロ・ロマーノヴィチ(1201～1264) ☞初代ハールィチ・ヴォルィーニ大公ロマン・ムスティスラーヴィチと東ローマ帝国貴族の娘アンナの長男。	1240	キエフ大公国が、 モンゴル帝国により滅亡 させられる。大公国の後継者としてダヌィーロ・ロマーノヴィチ(1201～1264)のハールィチ・ヴォルィーニ大公国(南西ルーシ)並びにウラジミル・スーズダリ大公国(北東ルーシ)に移っていった。
⑨ウラジミル大公国・・・ロストフ・スズダリ・ウラジミル近郊に移転していった。			
ウラジミル大公国 フセヴォロド3世の直系	1176即位36＝フセヴォロド3世(1154～1212) ☞父はユーリー1世ドルゴルーキー ☞最初の妻は、オセット人のマリヤ(1158～1205)	1176	初めてウラジミル大公を名乗った。短期的にはキエフ大公位にも就いた。息子にはコンスタンチンやユーリー2世、ヤロスラフ2世ら、孫にアレクサンドル・ネフスキーがいる。妻はオセット人のマリヤ。
		1185	『イーゴリ遠征物語』は、ノヴゴロド・セヴェルスキーイイーゴリが遊牧民ポロヴェツ人に対して試みた遠征の史実に基づいた物語である。はじめポロヴェツに対して勝利し、やがて敗れ囚われの身となったイーゴリ公が、ウクライナからカザフスタンにかけて居住するテュルク系遊牧民族ポロヴェツ人の協力者を得て脱走し妻ヤロスラヴナのもとへ帰るまでが、書かれている。
		1190	ドミトリエフスキー聖堂を建設。
		1193	ローマ教皇クレメン3世が、キリスト教の支配領域を広めるために、北方十字軍を命令した。バルト諸国が、攻めてきた。
		1211	皇后は、 アガフィヤ・フセヴォロドヴナ (1195～1238)は、ポーランド王カジミェシュ2世の娘である。
		1221	ニジニー・ノヴゴロドに、オカ川とヴォルガ川が合流する町で、東部の木造の要塞として建設された。
	1218即位20＝ユーリー2世(1188～1238) ☞フセヴォロド3世の長男	1225	スーズダリのクレムリンの中に、生神女誕生大聖堂(ラジジエストヴェンスキー聖堂)を建設。
		1236	☞バトゥを総司令官とする西欧征服は、チンギス・カンの子孫の次世代当主クラスの子孫達を選抜して、従軍させた。 ☞チンギスハンの三男オゴデイの長男で第3代ハン・グユク(1206～1248)、四男トルイの長男で第4代ハン・モンケ(1209～1259)等と一緒にいった。
		1236	ヴォルガ河を越えて、ヴォルガ・ブルガールに侵攻し、キプチャク地域を征服した。次に、リャザン、モスクワ、ウラジミル、ヤロスラヴリの順に征服した。
		1238	2月7日、モンゴル帝国のバトゥによるウラジミル陥落によって、アガフィヤは末娘のフェオドラと共に殺害された。
		1238	ヤロスラヴリ州でモンゴル帝国との「シチ川の戦い」で、戦死しその首はバトゥのもとに送られた。
		1238	引き続き1243年にもバトゥによりサライに召喚され、「ルーシ諸公の長老」としての権威を得る。
	1238即位8＝ヤロスラフ2世(1191～1246) ☞フセヴォロド3世の次男	1240	アレクサンドル・ネフスキーが、ネヴァ川でのスウェーデンとの戦い、氷上の戦いでドイツ騎士団にも勝利(1242)したが、キプチャクハン国に対しては、服従。
		1240	次に、キエフ、クリミアを征服した。征服しなかった主要な都市は、服従を約束したモレンスクと、湿地帯のノヴゴロドには侵攻しなかった。その代わりにドイツ騎士団とスウェーデンからその領土を狙われていた(北方十字軍)。
		1240	ポーランドに侵攻し、ワールシュタットの戦いで勝利し、ハンガリー王国ベラ4世とのモヒの戦いにも勝利し、次の都市ウィーンを目指した。
		1241	第二代ハン・オゴデイが死に、バトゥにカラコルムへの帰還命令が出たが、オゴデイの長男グユクと、三男クチュの長男シグレンの相継争いであった。
		1242	サライを首都としてキプチャクハン国を建設した。
		1246	モンゴル帝国第3代グユクの即位式に赴いた先のカラコルムにて死去。モンゴルにより毒殺されたという。
	1252即位11＝アレクサンドル・ネフスキー(1220～1263) ☞ヤロスラフ2世とガーリチ公ムスチスラフの娘との子	1252	キプチャクハン国の支援のもと、アレクサンドルは、ノヴゴロド公からロシア正教の主教座であるウラディミール大公となった。
1256		バトゥの死後、二人の子供が後を継いだが高齢であったため、バトゥの弟ベルケが後継者となった。	
1258		チンギスハンの四男トルイの五男フレグ(1218～1265)は、兄の命令によりイランイスマイル派アッバース朝を滅亡させた。	
1259		フレグは、四男クビライとアリクブケの後継者争いによりカラコルムに戻らず、イルハン国をタブリーズに建設した。	
1263		キプチャクハン国の首都サライ第4回訪問の帰りに、ニジニー・ノヴゴロド近郊で死亡。	

特徴	支配者	年号	出来事	
⑩モスクワ大公国(ダニールの時代のキプチャクハン国の影響=1191年間とイヴァン3世拡大の時代=136年間)				
☞ダニール時代には、キプチャクハン国から支配されていた。				
☞イヴァン3世は、東ローマ皇帝の姪と婚姻(1472)したので、モスクワ大公国は、東ローマ帝国の継承者として正教圏における新たな盟主となった。				
☞イヴァン3世は、ノヴゴロド公国がキリスト教カトリックのリトアニア公国と提携しようとしたので、ロシア正教を裏切る行為であるとして、虐殺し、併合(1478)した。				
☞イヴァン3世は、モスクワ公国が強大化していき、戦わうことなくキプチャクハン国を滅亡させた(1480)。				
アレクサンドルの末子ダニール時代	1283即位20= ダニール・アレクサンドロヴィッチ(1261~1303) ☞ウラジミール大公アレクサンドルの末子。	1271	モスクワ公国の成立。	
		1283	1420年代から1450年代までの内戦期を戦い抜き、モスクワ大公国の多くの分領を廃止して、統一国家の土壌を整えた。	
	1325即位15=イヴァン1世(1261~1340) ☞ダニール・アレクサンドロヴィッチの次男	1328	ウズベク・ハンから、ウラジミール大公位を与えられた。	
		1352	スーズダリに、スパソ・エフフィエフ修道院を建築。	
	1374即位15=ドミトリー4世・ドンスコイ(1350~1389) ☞イヴァン1世の孫	1370	ティムール(1336~1405)が、サマルカンドにティムール帝国を建国。ロシアに入りキプチャク=ハン国の都サライを略奪してその領域も併合した。しかし、世代交代がうまくいかず、1570年に滅亡した。	
		1374	ノヴゴルドにスパサ・ブレオブラジュエニヤ教会を建築。	
		1380	モスクワ大公が、ドン河のクリコヴォの戦いで、キプチャクハン国ママイと戦い、勝利し独立の方向に進む。以降、ドンスコイと言われる。	
	1389即位36=ヴァシーリー1世(1371~1425) ☞ドミトリーと公妃エフドキヤの長男	1392	モスクワ大公の時に、ニジニー・ノヴゴルド公国を併合した。	
	1425即位37=ヴァシーリー2世(1415~1462) ☞ヴァシーリー1世と リトアニア大公ヴィタウタスの娘ソフィアとの間の次男	1434	ヴァシーリー1世の弟ユーリーとの間で権力闘争を行ったが、最終的には勝利した。	
		1453	東ローマ帝国が、オスマントルコに敗北し、滅亡したので、ローマ帝国の伝統が、モスクワ公国に移転した。	
	モスクワ大公国		1472	最後のビザンツ皇帝コンスタンティノス11世の姪ソフィヤ・パレオロギナ(1447~1503)と再婚し、ローマ帝国の血をモスクワに持ち込んだ。
			1474	イヴァン3世により、ウラジミール・スーズダリ大公国もモスクワ公国に吸収された。
		1462即位43=イヴァン3世(1440~1505) ☞ヴァシーリー2世とボロフスク公女マリヤ・ヤロスラヴナの長男	1478	イヴァン3世が、ノヴゴルド公国がリトアニアと提携しようとしたため、モスクワ大公国に併合された。
			1479	モスクワにイタリアの建築家を招き、ウラジミールの大聖堂を真似して、生神女就寝大聖堂(ウスペンスキー大聖堂)を建設した。
			1480	モスクワ大公国のイヴァン3世は、キプチャクハン国への納税を拒否し、戦わずに退却させ、滅亡させた。(ウグラ畔の対峙)
		1502	イヴァン3世は、クリミアハン国と共に、キプチャクハン国の首都サライを、滅亡させた。(ウグラ畔の対峙)	
1505即位28=ヴァシーリー3世(1479~1533) ☞イヴァン3世とソフィヤ・パレオロギナの次男		1508	ニジニー・ノヴゴルドの巨大な赤煉瓦のクレムリンは、イタリア人により建設された。	
		1526	リトアニア大公国の大貴族グリンスキー公爵の娘のエレナ・グリンスカヤ(1510~1538)と再婚した。	
		1547	伝統に従い花嫁コンデスタにより、后を選んだ。賢妻アナスタシア・ロマノヴナ(?~1560)と結婚した。	
1533即位51=イヴァン4世(1530~1584) ☞父ヴァシーリー3世とエレナ・グリンスカヤの長男		1552	カザンハンに勝利し、その記念にモスクワに1560年、堀の生神女庇護大聖堂(聖ワシリー大聖堂)を建設した。	
	1569	ジグムント2世アウグスト(1520~1572)が、リトアニアを併合して、ポーランド・リトアニア共和国を設立。(1795年に消滅)		
	1570	イヴァン4世が、ノヴゴルド公国がポーランドと手を結んだので、ノヴゴルドの人々を、オプリーチニキを率いて虐殺した。		
	1581	イヴァン4世の子イワンを、口論の末に撲殺。		
滅亡	1580即位18=フォードル1世(1557~1598) ☞イヴァン4世とアナスタシア・ロマノヴナとの間の三男 ☞ボリス・ゴドゥノフの妹イリナ(1557~1603)と結婚	1584	イヴァン4世が死ぬと、ボリス・ゴドゥノフが、フォードル1世の摂政となった。	
		1591	イヴァン4世の四男ドミトリー(1582~1591)がウルグチで事故死したため、ボリスに対して悪い噂が立った。	
		1598	フォードル1世が死去し、リューリク朝が断絶。	

特徴	支配者	年号	出来事	
⑪動乱の時代・・・フォードル1世が死んでリューリック朝が断絶。ボリス・ゴドゥノフ他による15年間動乱の時代が始まる。(1598～1613)				
動乱時代	ボリス・ゴドゥノフ	1598ツァーリ即位7=ボリス・ゴドゥノフ(1551～1605) ☞1971マリヤ・スクラートヴァ=ベリスカヤと結婚 ☞嫁の父がオプリーチニキの首領だったので出世した	1580ボリスは、モスクワ北東のコストロマの下級貴族でタタール人であるが、イヴァン4世により大貴族になった。 1598イヴァン4世の妻 アナスタシア・ロマノフナ は、極めて評判の良い賢妻だった。ボリスは、その甥でモスクワ総主教のフォードル・ロマノフ(1553～1633)の存在が気に入りその子供ミハイル共々、北方の修道院に島流した。	
		偽ドミトリーが、ボリスの遺族を破滅させた	16011601年から1603年にかけて、大飢饉に見舞われ200万人が死んだ。 1605ボリスの妻マリヤ、長男フォードル2世を殺害する。長女クセニヤは、修道院に入れられた。	
		1606=ヴァシーリー4世・シュイスキー(1552～1612) ☞アレクサンドル・ネフスキーの直系子孫らしい	1606モスクワがポーランド・リトアニア共和国に占領され、民衆が蜂起し、皇位篡奪者、皇位僭称者が次々現れた。 1610ヴァシーリー4世が退位したので、1613年まで、ツァーリが不在となった。	
	その他		1611ポーランドのヴワディスワフ王子を新ツァーリとして推戴するため、ワルシャワへ派遣された使節団に加わった。スウェーデンが、再度、ノヴゴロドを占拠。たびたび北方十字軍の名目で侵入してきた。	
			1612☞クジマ・ミーニン(？～1616)は、ニジニー・ノヴゴロドの肉商人で、ドミトリー・ポジャルスキー公(1578～1642)は貴族。ポーランドのモスクワ侵攻を排除するために国民義勇軍を組織し、ポーランド軍を撃破した。 ☞ロマノフ朝による支配に協力するために、全国会議を招集したわけではない。	
	国民義勇軍	クジマ・ミーニン ドミトリー・ポジャルスキー		
	⑫ロマノフ家のロシア帝国(83年間) ☞ツァーリ、総主教、貴族議会が招集する全国会議の合意に基づいて、ロマノフ家による支配が始まる(1613～1917)。農民は含まれていない。また、大貴族制・農奴制を導入し、ポーランド・リトアニア公国から豊かな穀物地帯のウクライナを併合し(1667)、ステンカ・ラージンの農奴の反乱を抑えて安定的な経済基盤を確保した(1670)。 ➡これらのことをロマノフ朝初期に行えたことは、ピョートル大帝以降(1725)のロシア帝国発展のための基礎になった。			
ロシア帝国	ロマノフ家発展期	1613ツァーリ即位32=ミハイル・ロマノフ(1596～1645) ☞フォードル・ロマノフとクセニヤ・シエストヴァの子	1613コサックも参加した全国会議で、ツァーリとして、ロマノフ朝が決まった。次の2点が考慮された、 ・賢妻アナスタシアの親戚であること・ポーランド・スウェーデンとの汚れた過去がないこと。 1619海上交易路を開拓しようとしたノルウェー人、イングランド人、オランダ人に対して、マンガゼヤ航路(ウラル山脈北北東)の通行禁止処置を執った。 1626後妻であるが、花嫁コンテストにより、モジャイスク貴族の娘 エヴドキヤ・ストレシニョフ (1608～1645)を后を選んだ。	
		1645ツァーリ即位31=アレクセイ・ロマノフ(1629～1676) ☞ミハイル・ロマノフとエヴドキヤ・ストレシニョフとの息子	1648 マリヤ・ミロスラフスカヤ (1625～1669)が皇后になる。花嫁コンテストの審査員の義理の妹であった。 1667ポーランド・リトアニア共和国とのアンドルソヴォ条約により、キエフ公国の東部とキエフを奪還した。キエフはノヴゴロドについてロシア発祥の地だが、先進的な文化都市を獲得したことは、ロシアの発展に貢献した。 1670農奴ステンカ・ラージンの乱を鎮圧して、農奴制の強化に成功し、貴族の世襲制から、西欧的な国家機構に変身し官僚制、常備軍に支えられた絶対主義国家へ変貌した。	
		1676ツァーリ即位6=フォードル3世(1661～1682) ☞アレクセイ・ロマノフとマリヤ・ミロスラフスカヤの三男	1671後妻の ナターリア・ナルイシキナ (1651～1694)は、ピョートル1世の母后で摂政。大貴族の養女として育った。 167614歳で即位したが、病死した。皇后は、ポーランド系貴族の娘 アガフィヤ・グルシェツカヤ (1663～1681)。フォードルの一目惚れであったが、皇后も長男出産後に死んだ。	
		1682ツァーリ即位14=イヴァン5世(1666～1696) ☞アレクセイ・ロマノフとマリヤ・ミロスラフスカヤの五男	1682☞障害者だったので姉の ソフィア・アレクセーエヴナ (1657～1704)が、摂政になった。 ☞母方のミロスラフスカヤ家の血を受け継ぎ、事実上の女性君主として君臨した。 ☞1689年、清国とのネルチンスク条約が不平等であったことから、ナターリヤにより失脚させられた。	

特徴	支配者	年号	出来事		
⑬ピョートル大帝時代のロシア帝国(73年間) ☞西欧との交易を強化するために、サンクトペテルブルグを建設し、首都をモスクワからサンクトペテルベルクに移して(1713)、国名をロシア帝国(1721)とした。 ☞宿敵スウェーデンに勝って、バルト海に通ずる港を確保した(1721)。					
ロシア帝国	ピョートル大帝時代	1689初代皇帝36=ピョートル1世(1672~1725) ☞アレクセイ・ロマノフとナターリア・ナルイシキナの六男	1689 ☞エヴドキヤ・ロブーヒナ(1669~1731)は、ピョートル1世の最初の妻だが、スーズダリのポクロフスキー修道院に入れられた。 1697 25歳の時に、イギリス、オランダを中心にヨーロッパ視察旅行を行い、西欧化政策により産業の近代化を図ることにし、バルト海進出も不可欠と考え。 1712 ☞ピョートル1世の後妻マルタは、後のエカテリナ1世。リヴォニア出身、ドイツ人牧師に育てられた。 1713 サンクト・ペテルブルグを建設し、1713年に首都とし、1917年までロシア帝国の首都であった。		
		1725第2代女帝2=エカテリナ1世(1684~1727) ☞ピョートル1世の後妻	1725 メーンシコフ元帥らの支援で即位できた。暫く傀儡政権が続くが、ドイツ人の宮廷官僚が政治を主導するようになった		
		1727第3代皇帝3=ピョートル2世(1715~1730) ☞ピョートル2世の長男の長男	1727 シャルロッテ・クリスティーネ・フォン・ブラウンシュヴァイク=ヴォルフエンビュッテル(1694~1715)は、ピョートル1世の長男アレクセイの妃。ピョートル2世の母。ブラウンシュヴァイク=ヴォルフエンビュッテル公とその妻であるエッティンゲン=エッティンゲン侯女の次女として、ブラウンシュヴァイクで生まれた。姉エリーザベト・クリスティーネは神聖ローマ皇帝カール6世の皇后。マリア・テレジアは姪に当たる。また、イヴァン6世は甥アントン・ウルリヒの子である。メーンシコフ元帥らの失脚により即位したが、ロマノフ家の男子血統が途絶えた。		
		1730第4代女帝10=アンナ(1693~1740) ☞イヴァン5世の四女	1730 西洋文化を取り入れ、後継者もイヴァン5世系にしようとした。		
		1740第5代皇帝24=イヴァン6世(1740~1764) ☞前女帝アンナの姉の娘の長男	1740 前女帝アンナの姉は、エカチェリーナ・イヴァーノヴナ(1691~1733)。一人娘のアンナ・レオポルドヴナ(1718~1746)とアントン・ウルリヒ・フォン・ブラウンシュヴァイクとの間の長男がイヴァン6世である。		
		1741第6代女帝21= エリザヴェータ・ペトロヴナ(1709~1762) ☞ピョートル1世の三女	1741 クーデターによる。戴冠式はモスクワ就寝大聖堂で行った。 1752 建築家フランチェスコ・ラステッリ(1700~1771)が、エカテリーナ宮殿を建設。1753年、冬宮殿を建設した。 1759 プロイセンとの戦争に勝利した。この時代は、経済、国際的地位の向上、農奴制の普及が進んだ。		
		1762第7代皇帝1=ピョートル3世(1728~1762) ☞ピョートル1世の娘アンナ・ペトロヴナの長男	1762 ☞父親は、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン=ゴットルプ公カール・フリードリヒ公である。 ☞即位後プロイセンと講和条約を結んだことはロシアの内外で不評を買った。ロシア正教会にも弾圧した。 ☞妻エカテリーナ2世のクーデターにより退位させられ、後日、殺害される。		
		⑭エカテリーナ女帝時代のロシア帝国(172年間) ☞エカテリーナ二世の時代、クリミア半島が、ロシア領(1768)になった。 ☞アレクサンドル1世は、自由主義的な改革に着手(1801)したが、内政がうまくいかず、外交に向かい、ナポレオン戦争での勝利(1812)で、いっそう大国化していった。しかし、破綻する経済と社会の遅れを象徴する農奴制が遺された。それは、その後継者達に影響がきて、デカブリストの乱(1825)、アレクサンドル2世へのテロ(1881)、ロシア革命(1917)に繋がった。			
			1762第8代女帝34=エカテリーナ2世(1729~1796) ☞ポーランド領シュテッティンのプロイセン軍少将の娘	1745 第7代皇帝ピョートル3世とプロイセンの少将の娘エカテリーナが結婚	1768 キプチャクハン国の分国のひとつ、クリミアハン国はトルコ系民族でイスラーム教を奉じたタタール人が、黒海を舞台とした交易で繁栄した国であった。黒海沿岸、クリミア半島、コーカサス地方が、ロシア領になった。
				1773 コサックや農奴の反乱(ブガチョフの乱)を鎮圧。啓蒙君主だが、貴族が反対する改革は出来なかった。	1783 エカテリーナ・ダーシュコフ(1744~1810)が、ロシアの文化・教育・科学の責任者に就任した。ロマン・ヴォロンツォフ伯爵家に生まれ、リューリク朝以来の伝統を誇る名門貴族のミハイル・ダーシュコフ公爵と結婚。
1795 ポーランド分割により、ポーランド分割にも参画し、領土拡大を行う。ポーランド・リトアニア共和国が消滅する。					

特徴	支配者	年号	出来事
ロシア帝国 エカテリナ2世の時代	1796第9代皇帝5=パーヴェル1世(1754~1801) ☞エカテリーナ2世の長男 親子関係が希薄であった	1796	母エカテリーナ2世の崩御を受けてロシア皇帝に即位する。
		1801	帝位継承法を定め、エカテリーナ2世を全否定し、極端な政策を採ったためたパーヴェル1世は、クーデターにより暗殺された。
	1801第10代皇帝24=アレクサンドル1世(1777~1825) ☞パーヴェル1世の長男。	1793	皇后は、カールスルーエのバーデン辺境伯次女ルイーゼ・マリー・フォン・バーデン(1779~1826)。エリザヴェータと改名。
		1812	モスクワ大火により、ナポレオン軍を撤退させた。1814年のウィーン会議では、取り仕切るようになっていた。
	1825第11代皇帝30=ニコライ1世(1796~1855) ☞パーヴェル1世の三男	1825	皇后は、プロイセン王フリードリヒ・ヴィルヘルム3世の長女シャルロッテ・フォン・プロイセン(1798~1860)で、アレクサンドラに改名した。即位した年に、専制的な性格なので自由主義派の将校達によるデカブリストの乱が起こる。シベリア流刑について行った女性も多かった。
		1853	大北方戦争以来の宿敵オスマン帝国との再衝突は、もはや避けようがなかった。ロシア帝国とオスマン帝国の間で戦争が勃発する(クリミア戦争)。だが英仏の介入により戦いは敗北に終わり、より多くの凍らぬ海を求めた南下政策は頓挫した。
	1855第12代皇帝26=アレクサンドル2世(1818~1881) ☞ニコライ1世の長男	1855	皇后は、ヘッセン大公ヘッセン=ダルムシュタットの次女マクシミリアーネ・ヴィルヘルミーネ・フォン・ヘッセン=ダルムシュタット(1824~1880)で、マリアと改名した。
		1862	農奴解放令を出したが、テロの標的となった(1881年)。本当の改革は、革命を待たなければいけなかった。
		1864	1864年に知り合った、愛人のエカテリーナ・ドルゴルーコヴァ(1847~1922)は、3児をもうけ、ニースで死んだ。
		1873	ムソルグスキー(1839~1881)が、歌劇「ボリス・ゴドゥノフ」を作曲し、マリンスキー劇場で初演された。
		1877	チャイコフスキー(1840~1893)が、バレエ「白鳥の湖」を作曲し、ボリショイ劇場で初演された。
		1880	ドストエフスキー(1821~1881)が、「カラマーゾフの兄弟」を書いた。
	1881第13代皇帝13=アレクサンドル3世(1845~1894) ☞アレクサンドル2世の次男	1881	☞皇后は、デンマーク王クリスチャン9世次女マリー・ソフィー・フレデリケ・ダウマーから、マリア・フォードロヴナ(1847~1928)。 ☞腎炎を発症し、1894年に妻ダウマーの腕の中、クリミアで死亡した。 ☞2005年、デンマーク女王とブーチン大統領の合意の下、ダウマーの遺体がアレクサンドル3世の墓に移された。
		1863	☞ダウマーの姉アレクサンドラ(1844~1925)は、イギリス王室ヴィクトリア女王の長男エドワード7世の皇后となった。 ☞1919年、ダウマーの息子が、革命で逮捕された後マリアを心配した、アレクサンドラは、1919年に次男で国王のジョージ5世に命じて、幽閉されたヤルタに戦艦マールバラを派遣し、ダウマーと娘家族を救出した。二人は生涯仲が良い姉妹であった。
		1884	トルストイ(1828~1910)が、妻ソフィアと対立し、第1回目の家出をする。
		1890	ポロディン(1833~1887)が、歌劇「イーゴリ公」を作曲し、マリンスキー劇場で初演された。
		1891	シベリア鉄道の建設開始。この鉄道はロシア資本主義の形成にとっても不可欠なものとなったが、フランス資本の援助を受けたものであった。
		1894	皇后は、アレクサンドラ・フォードロヴナ(1872~1917)で、ヘッセン=ダルムシュタット家出身で、ヴィクトリア女王の孫で内向的であった。
	1894第14代皇帝24=ニコライ2世(1868~1918) ☞アレクサンドル3世の長男	1904	日露戦争が始まる。
		1905	血の日曜日事件⇒国会開設。
1907		サンクトペテルベルグの血の上の救世主教会は、アレクサンドル2世を弔う目的で3世が建設、死後26年後の1907年に完成した。	
1917		2月革命⇒ニコライ2世退位(ロマノフ朝滅亡)	

⑮共産主義政権

☞1917年、ロマノフ朝滅亡。1918年、首都をサンクトペテルベルクからモスクワに遷都した。

ロシア臨時政府	1917	ブルジョア主導の臨時政府に対して、革命派である労働者と兵士達はソヴィエトを組織し、二重権力となる。 11月革命⇒ソビエト政権樹立
ソビエト社会主義共和国連邦	1917	ソビエト社会主義共和国連邦
	1918	3月首都をモスクワに移転する。
	1927	ニジニーノヴゴロド市内を流れるオカ川とヴォルガ川に、初めて橋が架かった。ソ連時代には、ゴーリキーの名前であった。
ロシア連邦	1992	ロシア連邦が建設